令和5年度　小・中学校における環境教育の取組み

社会科（第4学年）

**テーマ〖　ごみ問題は誰の問題？自分たちにできること　〗**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 大東市立灰塚小学校

≪学習のねらい≫

　・ごみ処理と人々の生活との関わりに関心を持ち、ごみ対策や具体的な処理について調べる。

・人々が安心して生活していくために、ごみ処理が計画的・協力的に進められていることを知る。

・ごみが環境に及ぼす影響について学び、これからのごみ減量化のためのルールやマナーを守る姿勢を育てる。

≪学習の流れ≫

　実施時期　　６月　～　７月

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動の主な内容 | 指導のポイント |
| １ | ・家庭のごみの内容を調べ、自分たちがどんなものをごみとして捨てているか知る。  ・地域のごみ処理のルールやマナーがどうなっているか、家の人にインタビューする。 | ■どんなものがごみとなっているか、ごみを減らす手だてはないか考えさせ、ごみがどのように家庭や地域から回収されるのか理解させる。 |
| ２ | ・ごみ処理場の大まかな役割を知り、ごみがどのように処理されているか知る。  ・施設見学するにあたって、聞いてみたいことや疑問点をまとめておく。  ・ごみ処理に関わって働く人々に注目し、その思いや仕事に関心を持つ。 | ■１時で学習したことをもとに、人々がどのようにごみを処理しているのか興味を持って調べさせる。社会の仕組みだけでなく、そこで働く人々に注目させる。 |
| ３ | ・ごみ処理場を見学し、家庭や施設から出されたごみがどのように処理されているのか、施設の仕組みや工夫について学ぶ。  ・処理場で働く人々の苦労ややりがい、願いを知る。 | ■処理場で働く人々の思いに触れ、ごみについて現在問題になっていることに気づき、ごみが環境に及ぼす影響を知り、施設が行っている工夫に注目させる。 |
| ４ | ・見学して理解したことや考えたことを整理し、新聞にまとめて交流する。  ・自分たちにできることはどんなことがあるか、考える。 | ■施設の人の話や施設の仕組みをふりかえり、これからの環境のために自分たちはどのように行動していくか考えさせる。 |

≪活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー　等≫

　・東大阪都市清掃施設組合（水走ごみ処理場）

≪成果≫

　・施設の仕組みに驚き感動するとともに、そこで働く人々の願いにも気づくことができた。

　・教室や家庭でのごみ処理の仕方について、工夫したり声をかけ合うことができるようになった。

　・SDGｓの学習に取り組んだ際、ごみ問題や環境について振り返り、考えることができた。

